

財団法人東方研究会／東方学院

東方だより

第十四号

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2 延寿お茶の水ビル 4階 TEL 03-3251-4081 FAX 03-3251-4082 URL http://www.toho.or.jp

役員ご挨拶



前田 専學

理事長・東方学院院长

従って仏僧を養成する目的で建てられた、全国に十六校ある国立大学の一つです。

スリランカは、日本の北海道の約八割ほどの大きさの島国ですが、日本よりも古い歴史をもち、アヌラダプラは、今から約二五〇年以上も前にスリランカ最古の都があったところだ。...

第十四号 目次
役員ご挨拶 2頁
新春研究発表会 3頁
決算報告と新予算／平成二十年度芳名録 4頁
東方学院講師紹介 5頁
研究会員の声 6頁
研究員紹介 7頁
平成二十一年度上半期行事報告／「閑話本題」 8頁
財団法人東方研究会からのお知らせ

えたといわれるアショーカ王の王子マヒンダに出会い、仏教に帰依したと伝えられている場所です。日本に仏教が公伝したのは、それよりも九世紀も後のことです。...

その実感を更に強固にしたのは、キャンデーの仏歯寺に詣でたときです。ここに祀られている仏歯は、紀元前六世紀に、インドでブツガの遺体が火葬に付された際に入手されたものといわれています。...

コロンボからアヌラダプラへと向かう途中、クルネガラで、現在大きな岩山に建造中のこの国で最も高い仏像を見る機会がありました。この建造は、二〇〇一年に、パーミヤンの仏像が破壊されたのがきっかけでした。...

約三十年ほど続いた「タミル・イーラム解放の虎」との抗争にも終止符が打たれ、外国からの旅行者も徐々に増えつつあり、人々は平和の再来を心から喜んでいるのが肌で感じられました。この報告をもってご挨拶に代えさせていただきます。

「ゆかりの木 菩提樹」

古くから東方に関わっておられる方は、理事長室にあつた菩提樹の鉢植えのことをご記憶の方もおられると思います。中村洛子名譽理事長が植木市で見つけて持参されたということ。よくお寺の境内に植えられているシナノキ科の菩提樹ではなくて、冬の寒さに弱いインド菩提樹とのことでした。...

中村元理事長が亡くなった頃、樹は急に元気を無くし葉は落ち枯れそうになってしまいました。どうしたものと事務局長一同思案していましたところ、釈先生のクラスの若い研究会員の方が、農業に携わり土壌改良を研究しておられるということがわかりました。...



菩提樹と 奈良康明常務理事

### 新春研究発表会

三月十六日(月)、東京都文京区の東京ガーデンパレスにおいて、毎年恒例の当会主催の新春研究発表会(研究発表/懇親会)が開催されました。会は二部構成で、先に行われた研究発表では、当会の前田専理理事長からのご挨拶に続いて、当会平成十九年度アジア諸国派遣留学生・大谷大学大学院の目片祥子氏による「サキャ派の成立とその初期の歴史について」サキャ・ドゥンラフを中心に」と題する研究発表と、大正大学名誉教授の佐藤良純氏による「仏伝と考古学の間」と題する研究発表とが、その後、会場を同施設内の別室に移し、八十名近い列席者の中、比良龍虎氏による祝辞の後、大正大学名誉教授の北条賢三氏による乾杯に始まり、和やかな雰囲気の中、懇親会が開催されました。その席上で、研究会員の宮村敏彦氏、明治大学教授の山口泰司氏より祝辞をいただきました。

### 「仏伝と考古学の間」

佐藤 良純

(大正大学名誉教授)



ブツガが悟りを求めて行った六年間の苦行は空しいものに終わった。苦行が悟りへの正しい道ではないと知ったブツガは、プラグボーディの丘を下り、ナイランジャンナー河の水で水で身を清め、河岸の菩提樹下に坐して瞑想にふけつた。この時ウルヴェーラ村、セーラ集落の牧女スジャータが乳粥を奉じ、これを採用したブツガは、気力、体力を回復し、十二月八日、明けの明星の輝く時、覺りを開いたと多くの仏伝は伝える。

わが国において、ほとんどの伝承は、乳粥奉獻の娘として「牧女スジャータ」の名のみを挙げるが、仏伝を精査してみると、多くの説を見出すことができる。幾多の仏伝に現れる乳粥奉獻の牧女の数、名前は異なるが、この物語りが全くの創作ではないことは、ほぼ間違いない。ヒンドゥー教の伝承の中にも飢えた神が牛乳を飲んでよみがえるものがあり、ジャイナ教でも大祭の日に、南インド、シユラバナベルゴラの大ジナ像に大量の牛乳が注がれる。牛乳は現在のインドにおいても重要な飲料であり、乳製品も多い。スジャータ奉乳の伝承は、樹神信仰、仏伝、牛乳製品の重視が一体となって成立したものと見える。

仏陀入滅の前後を記す経典に大般涅槃經がある。パーリ文、サンスクリット文が出版されているほか、漢訳遊行經、漢訳根本一切有部毘奈耶、チベット訳、有部律など、同系統の文献も多く、それらを比較研究することにより、仏陀晩年の行跡がより明らかになるであろう。

### 「初期サキャ派の歴史」

目片 祥子

(大谷大学大学院)

チベット仏教の一派であるサキャ派は一〇七三年に、チベットの一族であるクン氏のクンチョクギェーポ(一〇三四―一〇二)が中央チベットのサキャという土地に密教道場を建立したことからその歴史が始まる。クンチョクギェーポは師から「白色の地に寺を建立せよ」と告げられ、その言葉どおり白色をした土地を探し出し、そこに密教道場を建立したと伝えられている。

「サキャ」という名称は「サ(土地)」「キャ(白色)」、つまり「白色の土地」という意味であり、「サキャ派」という派名もこの言葉に由来している。初期サキャ派の祖師たちがサキャに建立した寺院群は、文化大革命(一九六〇年代後半―一九七〇年代前半)の際にほとんどが破壊され、現在はその廢墟がわずかに残るのみである。現在もサキャには、クンチョクギェーポが寺を建立したと伝えられている場所に白色をした土地が残されており、訪れる者にかすかにその時代を思い起こさせる。

初期サキャ派の歴史を知るために重要な文献のひとつが、アメリカ人シャブ・ナーワングンガソナム(一九五七―一九五九)により、一六二九年に編纂された『サキャ・ドゥンラフ(サキャ派世系史)』である。初期サキャ派の祖師たち、とくに宗祖クンチョクギェーポやその子息サチェン・クンガニボ(一〇九二―一一五八)の伝記的著述は、現存する他の文献にはほとんど残されていない。サキャ派のごく初期の時代(十一―十二世紀)からは、『サキャ・ドゥンラフ』の成立年は時代がかなり上であるものの、初期サキャ派の歴史を知る上で、貴重な文献である。またサキャ派の根本思想である「道果説(ラムデー)」が、どのようにサキャ派へ伝わり、いかにして変化していったのか、という変遷をこの文献の伝記的著述から伺い知ることができる。



研究会では、平成十九年度より、更なる研究活動の進展と研究員相互の交流を目的として新たに研究部会を設置致しました。全ての研究員がいずれかの部会に所属し、それぞれの分野で研究していきます。各研究部会の活動報告ならびに紹介を随時行っています。今号では「東洋思想研究部会」の概要および活動状況の紹介をいたします。

### 研究活動報告

### 研究部会紹介

研究会では、平成十九年度より、更なる研究活動の進展と研究員相互の交流を目的として新たに研究部会を設置致しました。全ての研究員がいずれかの部会に所属し、それぞれの分野で研究していきます。各研究部会の活動報告ならびに紹介を随時行っています。今号では「東洋思想研究部会」の概要および活動状況の紹介をいたします。

### 〈東洋思想研究部会〉

幹事・茨田通俊 研究員



東洋思想研究部会は、関西地区在住の研究員によって構成されています。地域で研究員(茨田通俊・佐藤宏宗・北田信・西岡秀爾)が集まっている関係上、専門分野が各々異なっています。そこで研究会では、生命倫理や終末医療といった死生学の課題を基本に据え、各々の専門の立場から自由に討論を行っています。

これまで主に中村元先生が著された『原始仏教の思想』(『中村元選集』「決定版」第十五巻)の「生死の超越」に関する項を読み進めながら、仏教の死生観について確かめてきました。現在は、生死について深く言及された『正法眼蔵』冒頭の「現成公案」を読み始めたところですが、研究会は原則として研究発表の形に拘らず、対等に意見を話し合える座談会の形式を採用しています。研究者として専門の殻に閉じこもらず、脳死・臓器移植問題やターミナルケアなど実践的な課題と結びつけて、生死の問題を考えていきます。それは研究の社会的還元という観点から、現代的課題に積極的に応えていこうという試みでもあります。

研究部会は、研究員同士が大いに刺激し合っており、お互いの視野を広げることのできる場です。また、毎月の研究会では必ず最初に事務連絡を行い、研究員としての意識の確認に努めています。東方学院関西教室を中心とした関西地区での活動に対して、研究員が協力して当たる態勢ができてきているのも、研究部会の成果と言えるでしょう。

# 決算報告と新予算



## 主事 堀内伸二

本年三月ならびに五月に開催された役員会にて、平成二十一年度予算ならびに二十年度決算が承認されました。ここに別記のとおりその概要を報告申し上げます。特に注目される点について若干のコメントを付すことにいたします。

二十年度の実績を示す決算書においては、まず、「収入の部」の維持会費が、予算額を三割も上まわった点が挙げられます。予想をはるかに超える方が、今後、当法人の維持のためにご賛助いただけることになったことは、たいへん有難いことです。改めて御礼申し上げます。一方、「支出の部」においては、事業費の人員費および会議費の増額が挙げられます。前者は、新たな事業展開、また科研費関係の事務処理に伴う事務量の増加が大きな理由です。また、前年度比二百パーセントに上る後者については、法人制度改革に向け平成二十年度より新たに設置された「小委員会」が、回を重ね開催された事が主たる要因です。

この度の制度改革において、「公益法人」認定に向け準備を進めている当法人は、特増認定に見られる通り、公益法人たる内実は十分に持ち合わせていることを自負するところであり、関連三法に準拠した形での定款策定を初め、内閣総理大臣の認可を得るため、不可避な多くの検討課題の審議、詳細にわたる具体的な作成など、対処すべき多くの事柄があります。制度的基礎がしっかりとれていることが強く求められておりますが、具体的書類作成の中でも、申請時に提出が求められる財務諸表は、専門的知識無くしては処理・作成不可能なものであり、公益法人認定の際の重要な判断材料ともなるものです。したがって当然専門家の協力が必要となってきましたが、有難い事に、平成二十年度より、当法人の目的・理念をよく理解され、誠身的にご協力いただける公認会計士の方が、当法人に深く関わって下さるようになりました。

奇しくも、期を同じくして、広く不特定多数の人の利益に資すべき公益事業の展開上、これまで非常に手薄であった広報部門にも、当法人に適した、本来の意味の広報を指導していただける方が加わって頂けることになりました。二十一年度予算の「支出の部」について特記すべきは、管理費の人員費ならびに広報費に関する新科目設置ならびに予算計上は、上記の変化に伴う、今後の法人にとって実に意義深い、従来の予算との大きな相違点であります。

当法人における本格的な広報活動は、まだスタートしたばかりですが、本年度において、すでにその成果が現れつつあります。七月二日「日経新聞」夕刊一面に、「前田理事長の「仏教の「いのち」とは」という記事が、写真とともに大きく掲載されたことが、その象徴であります。



役員会 平成21年3月9日

### 平成20年度 貸借対照表

平成21年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	21,315	流動負債	12,360
現金預金	20,227	仮受金	8,463
運用有価証券	184	未払金	3,897
未収金	304	固定負債	0
固定資産	291,042	負債の部合計	12,360
基本財産	112,489		
建物	8,637		
土地	23,887		
有価証券	79,965		
基金	178,254		
研究所建設基金	168,254		
日本仏教史研究基金	10,000		
その他固定資産	300		
資産の部合計	312,357		

### 平成20年度 収支計算書

自平成20年4月1日 至平成21年3月31日

【収入の部】 (単位:千円)			
科目	予算額	決算額	差額
財産運用収入	3,650	3,731	81
会費収入	1,500	1,520	20
事業収入	15,900	16,787	887
寄附収入	8,100	9,988	1,888
補助金収入	2,400	2,445	45
その他収入	200	92	-108
当期収入合計	31,750	34,563	2,813

【支出の部】 (単位:千円)			
科目	予算額	決算額	差額
事業費計	25,050	26,269	1,219
研究事業費	19,400	20,127	727
普及事業費	5,600	6,142	542
東方学院	4,450	4,511	61
中村元東方学術賞	850	997	147
その他雑費	300	633	333
国際協力費	50	0	50
管理費計	6,097	4,732	-1,365
基金取得支出計	0	500	500
予備費計	600	0	-600
当期支出合計	31,747	31,501	-246
当期収支差額	3	3,063	3,060
次期繰越収支差額	21,003	8,617	-12,386

### 平成21年度 収支予算書

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日

【収入の部】 (単位:千円)			
科目	当年度	前年度	増減
財産運用収入			
基本運用財産利息収入	3,700	3,650	50
会費収入			
普通会費	1,550	1,500	50
事業収入			
東方学院	16,100	15,350	750
学術賞	150	150	0
新春研究発表会	400	400	0
寄附収入			
賛助会費	1,700	2,000	-300
維持会費	5,100	4,000	1,100
大阪後援会会費	850	800	50
一般寄附等	1,100	1,300	-200
補助金収入	1,710	2,400	-690
その他収入	70	200	-130
当期収入合計	32,430	31,750	680
前期繰越収支差額	8,500	11,000	-2,500
収入合計	40,930	42,750	-1,820

【支出の部】 (単位:千円)			
科目	当年度	前年度	増減
事業費	25,990	25,050	940
研究事業費			
研究費	4,200	4,500	-300
特定研究推進費	1,440	840	600
文献購入費	100	100	0
研究成果公開費	600	1,600	-1,000
人員費	13,000	12,000	1,000
学会費	60	60	0
雑費	150	300	-150
普及事業費			
東方学院	4,160	4,450	-290
中村元東方学術賞	850	850	0
宗教文化の旅	100	150	-50
講演会開催・協力	200	0	200
雑費	150	150	0
国際協力費	50	50	0
図書贈呈・配布	930	0	930
管理費	6,240	6,097	143
基金取得支出	0	0	0
予備費	200	600	-400
当期支出合計	32,430	31,747	683
当期収支差額	0	3	-3
次期繰越収支差額	8,500	11,003	-2,503

### 平成二十年度 芳名録 (五十音順・敬称略)

- 維持会員**  
赤井士郎 足利学校事務所 我妻綱子 飯岡祐保 石田祐雄 今西順吉 石上和敬 瓜生津隆真 小笠原勝治 奥田聖広 風間敏夫 金田泉 川崎信定 菅野博史 久間泰賢 清島秀樹 米馬明規 黒川文子 小坂機融 小島悠山 淳心会日野紹運 未廣昭純 菅原信海 鈴木一馨 高崎直道 高松孝行 清水谷善主 萩藤敬 坂部明 定方晟 萩春秋社 羽矢辰夫 比良佳代子 福留順子 (財) 東洋哲学研究所 常盤井寛猷 奈良康明 西岡祖秀 西川高史 三友健容 武蔵野大学 華師院(松原光法) 安本利正 吉野恵子 渡邊信之 渡邊寶陽
- 賛助会員**  
秋葉佳伸 阿部敦子 有馬頼底 石井義長 伊藤瑞敬 稲垣光江 稲葉珠慶 遠藤康 往生寺(水野善朝) 大井玄 岡崎英雄 小笠原隆元 沖本克己 荻山貴美子 奥住毅 金田静江 北村彰宏 木村清孝 窪田成子(三石造形芸術院) 小泉宗之 小林節子 小峰立丸 小山典男 近藤良一 斎藤明 佐久間留子 桜井俊彦 島田外志夫 中田直道 末木文美子 須佐知行 大海修一 高野英二 戸田裕久 長野市南長野仏教会 中村行明(日本31ガ学生会) 田丸守也 成田山新勝寺 西尾秀生 西宮寛 西村心華 (宗) 日本31ガ学生会 中村保志孝 濱川香雅里 濱川量子 引田弘道 日隈威徳 的場裕子 深井秋子 福士慈絵 藤田宏達 藤山覚一郎 堀江順司 堀越教之 松野純孝 松村淳子 松村恒 的場裕子 身延別院(藤井教公) 宮元啓一 森祖道 森田幸子 矢島道彦 山口恵照 山本文彦 由木義文 横地優子 吉田魚彦 渡部信
- 御寄付**  
植木雅俊 奥田聖広 門脇英晴 克念社 真宗大谷派親鸞仏教センター 高松学子 田辺和子 津田真一 中田直道 長谷川霊信 瀧藤尊淳 健代和央 塚原昭應 塚原亮應 出口順得 出口隆順 唐招提寺 東大寺 念法真教教団 吉田明良 平岡英信 廣瀬善重 南谷忠敬 宮崎光映 三宅光雄 森田祥朗 森田俊朗 山岡武明 山口恵照 奥田聖広 門脇英晴 克念社 真宗大谷派親鸞仏教センター 高松学子 田辺和子 津田真一 中田直道 長谷川霊信 瀧藤尊淳 健代和央 塚原昭應 塚原亮應 出口順得 出口隆順 唐招提寺 東大寺 念法真教教団 吉田明良 平岡英信 廣瀬善重 南谷忠敬 宮崎光映 三宅光雄 森田祥朗 森田俊朗 山岡武明 山口恵照

## 東方学院 講師紹介

### 奥住 毅

(元千華敬愛短期大学助教授)



私は昭和五十六年から唯識の講義を持たせていただいている。当時は教室は神田明神の男坂を少し降りた所の春秋社分室の小さな室であった。法隆寺から刊行されている『新導成唯識論』をテキストに、一々の文章について注釈書『述記』に基いて理解した内容を説明するという仕方講義を進めた。聴講する研究会員は二名から三名くらいであった。二年くらいしてから現在の神田明神鳥居横のビルの四階へ移って講義するようになった。聴講者が少数であったため、休む人が出たときはたった一人の人に文字通り一対一で講義するというようなこともあった。聴講の人数は少なくても、みな真摯熱心な人達であったので、その頃の人達のことは多く記憶している。

いつの頃からか、唯識と並べて中論の講義を持たせていただくことになった。はじめは青目註・羅什訳『中論』を読んで講義したが、のちにチャンドラキールティの『プラサンナパダー』を講義するようになった。中論にしても唯識にしても、前述のようにはじめの頃は少人数であったが、さいわいも今日では人数もふえて、その中には十年も継続して一緒に学んで下さっている方もいる。こういう点は、普通の大学のように一年でメンバーがすべて変る教場の講義とは一味も二た味も違うところである。それに、皆が熱心である。継続年数の多いこともそうであるが、年少の人から老年の人まで学生から一般人までメンバーが多様であること、したがって講義に対して教える側が受ける反応が多様であり、そのことから教える側がむしろ教えられ、読むテキストの私自身の読みが深められるというような利点があること、この事は大きい特色・美点ではなからうかとおもう。

聴講者はそれぞれ自らの生活を持って教室に通って来るので、生活の変化(特に昨今は)によって聴講の継続が左右されることもある。最近心を動かされている事の一つである。

## 明宏ビル時代の東方学院の思い出

### 保坂 俊司

(中央大学教授)

私が初めてお世話になった頃、つまり三十年ほど前の東方研究会(以下東方と略記)は、まだ明神様の奥の右手にある非常階段のような階段を降った直ぐ右脇にあった二階建ての小さなビル(明宏ビル)の二階にありました。当時の東方は、このビルの二階を三つに仕切り、表側に事務所、真ん中が教室、そして奥が先生の応接室となっておりました。と言っても、夫々の空間は三畳く四畳ほど有るか無いかという広さでした。ですから、授業中「一寸ごめんくださいませ」と仰りながら我々の後ろを、申し訳なきように身体を縮めて中村元先生が、通り抜けてゆかなければならないほどでした。私は、ここで津田眞一先生の授業を受けておりましたが、受講者は二く三人でした。それでも津田先生は常に刺激的な授業をしてくださいました。また、私は柴田道賢先生(駒澤大学名誉教授)の「道元の思想」と言う講義を練馬の先生のご自宅で受講いたしました。先生は無知な学生の私に合わせいろいろな講義をしてくださいました。しかも、私が「お休みを戴きます」と申し出ない限り授業をしてください、恐らく一年間で四十回以上講義してくださいと、記憶しております。まさにマンツーマンの授業で、実に多くのことを学ばせていただきました。

また後に、私が授業のアシスタントをさせていただくことになった中村先生の授業は、大手町ビル六階の「在家仏教協会」の会議室で行われました。当時総勢三十人位の受講生が居りました。年齢もまちまちでしたが、皆中村先生の学徳を慕って集まった方々で、パーティーや旅行なども交え、楽しい雰囲気での授業でした。

この様に当時の東方は小さな組織でしたが、中村先生の「学問に年齢や学歴は不要、ただ情熱があれば何方でも歓迎いたします。一緒に学びましょう」との言葉に引かれた人々の集まりでした。

小さいけれど「現代の寺子屋」と言う言葉が相応しい学びの空間でした。



## 研究会員の声

### 仏教の源流への関心から始まって

#### 花岡 秀哉



だいぶ以前、中村元先生のお話をお聞きする機会がありました。仏教がインドで生まれ、各国に伝播していった様子、伝播するごとに仏教がその国の文化の影響を受けて姿を変えていったこと、さらに、その変容のさまを見ることによって逆にその国の文化の特質を知ることができる、という趣旨のお話でした。それがきっかけで、仏教の源流を辿ってみたいと思うようになりました。これが東方学院の門を叩いた一つの動機です。

もう一つの動機、それは、人々の喜びや悲しみなど、人としての自然な感情は洋の東西を問わず全く変わらないのに、ものの見方・考え方となると、東西でなにか深いところに違いがあるような気がして、それを知りたいと思ったことです。

東方学院に入門して間もないころ、前田先生から小泉八雲についての先生の講演録を頂きました。八雲は「私」という観念をとりあげてこういいます。「西欧人の理性から見て、実在のうちで最も信じ、拠りどころとすべきものと思われるもの（「私」）を、仏教徒の理性は、これを幻影の最も大なるもの、一切の悲嘆・罪業の根源であるとさえ言っているのである」。その上で八雲は西欧的な自我観に疑問を呈します。自我の捉え方、という視点があることを示唆されたように思いました。

近年、西欧的な思考の枠組みが広まって行く中で、東洋的な思考は、それとはまた別の角度からの見方があることを教えてくれるのではないか、そう考えながら東方学院の講義を聴講しております。

現在、前田先生の「インドの思想と文化」、水野先生の「サンスクリット」、奥住先生の「中論の思想」を受講しております。直接先生方の聲咳に接しながら、東洋の思想に触れることができるのを大変有難く思っております。

### 一生勉強、一生修行

#### 水越 正彦

GMの倒産に象徴される世界同時不況、地球温暖化、グローバル化、アイデンティティの喪失などに代表される近年の社会不安の増大を憂い、その根本原因の解明と対策に無関心の方はいないと思います。

今から約二千五百年も前にも、同じような世の中の激動期に、人々の苦の根本原因の解明と対策、実行に生命を懸けて挑んだ人がいました。皆さんご存じのゴータマ・ブツダです。ブツダが解明した「縁起の理法」に基づく智慧と実践を、改めて現在に生きる私たち、特に仏教の風土に育まれた日本人は、真剣に再評価する必要があると思います。約四十年間、企業の研究開発最前線に従事してきた科学技術者としての私にとっての命題は、この偉大な人類の遺産とも言えるべきブツダの思想をいかに現代人として理解し、現代に生かすかということです。特に、ブツダの思想と科学の接点、一体化を探ることが自分の当面の目標と考えています。

東方学院の一般思想部門の「思想研究の分野における学科の細分化とセクショナリズム」に起因する多くの欠陥を打破し、東洋思想と西洋思想を一体化し、人間の真理を追求しつつ、新しい指導的思想を確立することを目的とします」という高邁な建学の精神に触発されて、数年前より長年の念願がかない、前田専學先生の「仏教入門」を受講しています。難解な仏教思想をユーモアを交えたわかりやすい解説と長老を彷彿させる先生の温かいお人柄に魅了されているのは私一人ではないでしょう。一方、大きい虫眼鏡持参で仏典の輪読に励んでいらっしゃる八十歳代の同級生や今では珍しくなった礼儀正しく聡明な二十歳代の同級生などに囲まれた授業は、正に中村元先生が目指



された「現代の寺子屋」です。学びは最高の贅沢であることを実感させてくれる熱心な先生と同級生に日々啓発されています。ここ東方学院は、ブツダの最後の言葉「もろもろの事業は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」（中村元先生訳）や「一生勉強、一生修行」（前田専學先生）の貴重な言葉が生きている場であると実感するとともに、自分の目標を達成すべく日々励まされている今日この頃です。

## 研究員紹介

### 水上 文義



私が東方研究会の研究員に採用されたのは、やや時期はずれであったもののようでした。それは当時東京大学におられた末木文美士先生の推薦で、中村元先生の面接を受けて採用されたのが平成三年「六月」という経緯があるからです——実際は仮採用で、正式には平成四年四月からですが——。とはいえその面接は、どんなに難しいことを聞かれるのかと思っていた当人の思い込みとは裏腹に、中村先生らしい、実にあっさりとした、しかし採用条件の要点を確実に満たしたものでした。このとき初めて、中村先生と間近に一对一でお会いしました。今でもその折の緊張は忘れませんが、驚いたのは私のような若輩者に対して、どなたもご存じのあの大変丁寧な物腰で接しられ、なおかつリラックスさせようという配慮をひしひしと肌と感じ、大変失礼な言い方にはなりません、本当に偉大な本物とは、こういう方をいうのだと心から実感しました。

こうして東方研究会の一員となりましたが、当然にも当時はインド学インド仏教が主流だった財団で、日本仏教の天台密教と習合神道を専門とする私はさして貢献できませんでした。ところが中村先生は、日本仏教に関して気になることがありだと、例えば「鎌倉時代に宗教という言葉をどう理解していたか分かる良い例がありますか？」などと、時折気さくなお電話を下さるのでした。それが随分の励みになりました。このことは、一つの研究にも多くの分野の見方を視野に入れておかなければいけないという、研究者として当然といえば当然ですが、実行すると難しくなることを、先生ご自身が、身を以て教えて下さっているのだと思ひ、また誰にも丁寧な先生の物腰も、人との関わりのおかげで生かされている自分のあり方を示しておられるのにならぬ、身の引き締まる思いがしました。

今、私は東方学院で日本仏教とくに平安仏教に関する講座を担当していますが、様々な分野で多くの経験をつまれた研究会員の方々に、却って教えて頂くことが多いのが現実です。知識の切り売りではなく、会員の方々に教えられ交流を深めて人間性も深める、これが中村先生の理念であろうと忖度し、それを少しでも実現できればと心がけています。

## 建築バカ之眼

### 常磐井 慈裕

JR御茶ノ水駅から東方学院までの徒歩五分ほどの道程は、都内でも有数の近代建築の宝庫である。まず、JR御茶ノ水駅(昭和七年)であるが、神田川右岸の谷を切り開いた狭隘な立地条件のため、未だにエレベーターもエスカレーターも設置できず、悪く言えば旧態依然、良く言えば文化財的価値の高い駅である。聖橋口と御茶ノ水橋口に二分される駅舎は装飾を排したデザインで面白味に欠けるが、当時としては最先端のモダニズムの表現である。ホームの上屋、跨線橋など、鉄骨と木材を組み合わせた丁寧な造作が目を引き。また、崖側のコンクリートの擁壁も平板にせず、コルゲートのようなアークセントが施されており、一見の価値がある。改札を出て、聖橋の上に立つと、左手に御茶ノ水橋(昭和六年)の優美な鉄骨の曲線が見える。足下の聖橋(昭和四年)に続いてJR御茶ノ水駅と一体になって整備されたものである。聖橋は、東京中央電信局(大正十四年)を設計し、放物線状のデザインを得意とした山田守の作品として名高い。いずれも東京市の震災復興事業の一環として整備されたものであり、この神田川界隈の眺め(丸ノ内線の架橋を除く)は八十年近くも変わっていない。右手には、総武線の壮大なトラス橋(松住町架道橋)が見えるが、これは両国止まりだった総武線を中央線中野方面に直通させる鉄道省の一大事業として隅田川橋梁や秋葉原高架橋と同時に施工された名橋である。聖橋を渡り始めて、すぐ右側の木立の中に見えるのが、湯島聖堂(昭和十年)である。築地本願寺(昭和九年)の設計でも知られる伊東忠太の作品で、鉄筋コンクリート造ながら、中国風建築の趣をよく表現しており、映画の特撮などにもよく使われている。昨年、裏手の樹木がすっかり伐採され、建築のディテール、特に伊東忠太の好んだ屋根上の動物の装飾が東方学院の理事長室からも観察できるようになった。東方学院のビルは、神田明神の門前に位置するが、神田明神の社殿(昭和九年)も鉄筋コンクリート造の震災復興建築である。鮮やかな朱色の社殿には古きは感じられないが、建具や金具の重厚なデザインが建設時期を伝えている。



以上、御茶ノ水駅から東方学院に至る道程には昭和初年の建築の最高傑作が集積しているわけであり、東方学院は、このように文化的のみならず、建築学的にも極めて恵まれた立地条件を備えている。建築は学問とも通じるところ大であり、名建築の鑑賞は、学問的な判断力を養うことにもつながる。この地を選んだ中村元先生の慧眼には敬服するしかない。

# 行事報告

平成二十一年上半期(一月〜六月)

## 東方学院ガイダンス

四月六日(月)午後六時より、東方学院のガイダンスが東京都千代田区にある神田神社明神会館(東京本校)及び大阪府茨木市にある真宗大谷派茨木別院(関西教室)において開催されました。

東京本校のガイダンスにおいては、最初に前田専學東方学院院长により創立者中村元博士のビデオを鑑賞しながら、東方学院の理念や学院全般についての説明がありました。続いて各講師の紹介、講師による講義内容の説明などが行われました。参加者は前田学院院长をはじめとする約三十名の講師と、研究会員諸氏、合わせて約百名でした。

## 東方学院仏像彫刻・宗教画講座

### 第九回研究会員作品展

東方学院の「仏像彫刻」講座、「宗教画」講座を受講中の研究会員による作品展が、東京都千代田区にあるインド大使館地下ギャラリーにおいて六月十五日(月)から同二十一日(日)まで開催されました。

今回は、研究会員諸氏(仏教彫刻出品者二十六名、宗教画出品者二名、講師三名)による作品が展示され、日頃の成果を披露しました。

また、「南インド古典音楽」講座の協力で会期中、二日間会場にてヴィーナー、ムリダンガム、タンブーラによるインド音楽が演奏されました。会期中の入場者数は約千二百名の盛況ぶりです、この分野への関心の高さが窺われました。



## 研究員総会



六月六日(土)東京都千代田区にある学士会館において第三回研究員総会が開催されました。この総会は当会の更なる発展のため、研究員が一同に会し交流を深めつつ互いに意見交換を行うことを目的として企画されたものです。

当日は約三十名の研究員が出席し、前田理事長の挨拶に始まり、執行部より研究員に対する通達・要請事項が伝えられました。また、その後、研究会の運営などについて研究員間で活発な議論が交わされました。

## 第一回中村元インド哲学カフェ

七月十八日(土)午後二時より、学院関西教室主催の公開講座が京都市下京区にあるキャンパスプラザ京都の二階ホールにおいて開催されました。中村先生の人物と業績、さらには東方学院について関西の方々にも広く知っていただくために企画されました。

当日は約五十名の参加者がチャイ(インドのお茶)を片手にインド舞踊を楽しみ、インドの哲学に触れました。素人(一般の方々)や玄人(専門家)などという垣根を取り払った座談会の形式が功を奏し、参加者からは活発な質問が飛び交い大変な盛況ぶりとなりました。今後も中村先生の知的遺産とそこに込められた願いを共有するべく回を重ねて行く予定です。



## 「般若身経」

谷口昌彦(研究員)



タイトルをご覧になって、「おや？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。誤字や誤植ではありません。『操本法』を創始した橋本敬三医師(一八九七年〜一九九三年)が、百点満点でなくとも間に合っていれば良いからと、一生健康で楽しく幸せに暮らすための健康の法則をまとめた一枚のピラミッドに『般若身経』と名づけて配布していらつしやうとたという事です。「仏意を集約した一番短い經典『般若心経』になぞらえて」(『生体の歪みを正す―橋本敬三論想集』創元社、三十七頁注)の命名だったといえます。私は大学院の修士課程に進学した年に大病を得て、数年間を殆ど寝た切りで過ごしたこともあり、健康法を色々試しました。その中でも操本法は、息・食・動・想という四つの最小限責任生活と、それらの場としての環境とのバランスの重視、きもちのよさ、快適感覚で治るのだという橋本先生の生命観・思想など、個人的に興味をそそぎました。

さて、タイトルの『般若身経』に戻りましょう。何年も内弟子として身近に控えていた方々によると、橋本先生は操本法を完成途上のものと考えて工夫を続けられ、存命中、『般若身経』にも少しずつ改訂を施していらつしやうと伺います。ところが、農文協から出た『万病を治せる妙療法―操本法』がよく売れて、改訂が施されなまま未だに売れ続けているために、この本から操本法を学び始める人が多いようです。一旦活字になってしまつと、それが完成形だと誤解してしまいがちで、存命中に橋本先生を訪ねて来た人々の多くも、目の前の橋本先生の言葉に素直に耳を傾けるといっていいと思います。そして、全国操体バランス運動研究会等、現在の全国的な集まりのプログラムを見ても、状況は当時とあまり変わっていない様子です。工夫を重ね続けた著者本人よりも、過去の出版物という確からしく見えるものの方が絶対視されてしまつという現在進行中のテキスト伝承の実例を、私自身の専門分野とは違いますが、強い関心を持って注目しています。

## 研究員のコラム 第4回 閑話 本題

これは、『万病を治せる妙療法』の枠に押し込められ、現在全国的な集まりのプログラムを見ても、状況は当時とあまり変わっていない様子です。工夫を重ね続けた著者本人よりも、過去の出版物という確からしく見えるものの方が絶対視されてしまつという現在進行中のテキスト伝承の実例を、私自身の専門分野とは違いますが、強い関心を持って注目しています。

### 財団法人東方研究会からのお知らせ

#### 会員募集のお知らせ

当法人では各種会員制度を設け、随時募集いたしております。会員には、機関誌『東方』をはじめとする各種情報の提供が受けられる普通会员と、当法人への支援を主な目的とする賛助会員、ならびに維持会員がございます。

#### ◇ 普通会员 ◇

普通会员の皆様には、毎年一回発行される機関誌『東方』の他、当法人主催の各種行事および会合等に関するご案内をお送りいたしております。

年会費 七千円

#### ◇ 賛助会員 ◇

#### ◇ 維持会員 ◇

当法人では賛助会員ならびに維持会員を募集いたしております。当法人の趣旨にご賛同頂ける皆様からのご協力をお待ちいたしております。なお、募金の趣旨をご理解の上、できうるかぎり複数口のお申し込みを賜りたく存じます。

賛助会費 一口 一万円  
維持会員 一口 五万円

\* 詳細は財団法人東方研究会事務局までお問い合わせください。

#### 『東方』第二十四号 刊行

三月三十一日、当法人の機関誌『東方』の最新号が刊行されました。今号は論考六篇・報告二篇のほか、鎌倉夏期宗教講座の講演録及び中村元博士東方学院講義録（『大唐西域記』を読む）など各種連載記事を掲載致しました。なお、本誌は会員（研究会を除く）の皆様にお送りしているほか、各種研究機関・図書館等にも納められています。頒布可能なバックナンバーもございますので、詳細は事務局までお問い合わせください。

#### 第十回 酬佛恩講合同講演会のご案内

来る十一月二十八日（土）午後、奈良市西ノ京の法相宗大本山華師寺において、同寺のご後援の下、東方学院と酬佛恩講共催で第十回目となる合同講演会を開催いたします。本講座の受講を希望される方は、葉書またはファックスにて当法人事務局までお申し込みください（お名前とご連絡先を必ず記載してください）。

東方学院では、各種講座の内容・受講料・お申し込み方法などを記載した『二〇〇九 東方学院の手引き』を配布いたしております（無料）。事務局にお越し頂ければ直接お渡しいたします。

郵送をご希望の場合は、「手引き希望」と表記した封筒に入手を希望される方の郵便番号・住所・氏名・電話番号を記した紙を同封の上、東方学院事務局宛にお送り下さい。本年から送料も学院負担となりましたので、無料で『手引き』をお送りいたします。なお、複数部をお求めの方は別途お問い合わせをお願いいたします。

#### 「東方だより」編集部より

編集部では読者の皆様からのご意見・ご要望・ご寄稿をお待ち申し上げております。詳細は当法人事務局「東方だより」編集部までお問い合わせ下さい。なお、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承ります。



第二十四号 表紙写真

#### 【主な執筆者】

- ・前田 専學 (東京学院院长)
- ・下田 正弘 (京大名誉教授)
- ・ 藪田 稔 (京大名誉教授)
- ・ 定方 晟 (東海大学名誉教授)
- ・ 茨田 通俊 (東方研究会研究員)
- ・ 佐々木 一憲 (東方研究会研究員)
- ・ 入井 善樹 (光教寺住職)
- ・ 佐久間 留理子 (東方研究会研究員)
- ・ 水越 正彦 (東方学院研究会)

(敬称略)

#### 新任研究員紹介

本年四月一日付で左記の一名が新たに当法人の研究員として採用されましたのでここに報告申し上げます。

金子 奈央 (かねこ なお)

東京大学大学院単位取得満期退学研究テーマ 宗教学(儀礼論・宗教法)

#### 交通のご案内 (東京本校)

#### 鉄道各線の最寄駅 (徒歩十分以内)

#### JR 東日本

中央線/総武線 御茶ノ水駅「聖橋口」

#### つくばエクスプレス

秋葉原駅「A3出口」

#### 東京メトロ

銀座線 末広町駅「3番出口」

千代田線 新御茶ノ水駅「B2出口」

丸の内線 御茶ノ水駅「郵便局口」

当法人本部及び東方学院東京本校のあるビルは神田明神通りと神田神社の正面参道に面しております(大鳥居東隣、延寿御茶ノ水ビル4階)。



\* 駐車場・駐輪場のご用意はございません。

なお、関西地区教室・中部地区教室に関するお問い合わせは、東京本校までお願いいたします。

東方だより 第十四号 (平成二十一年八月一日) 編集/発行 財団法人東方研究会

(東京本校) 東京都千代田区外神田二十七-2 延寿お茶の水ビル四階 〒100-0021 TEL 03-3251-4081